

平成28年度東京都自立支援協議会セミナー

「人をつくる・地域をつくる」  
— 障害者（児）相談支援の充実のために —

東大和市地域自立支援協議会 委員  
社会福祉法人東大和市社会福祉協議会  
精神障害者地域生活支援センター  
ウエルカムセンター長 齋藤 知穂

# ウエルカムの概要

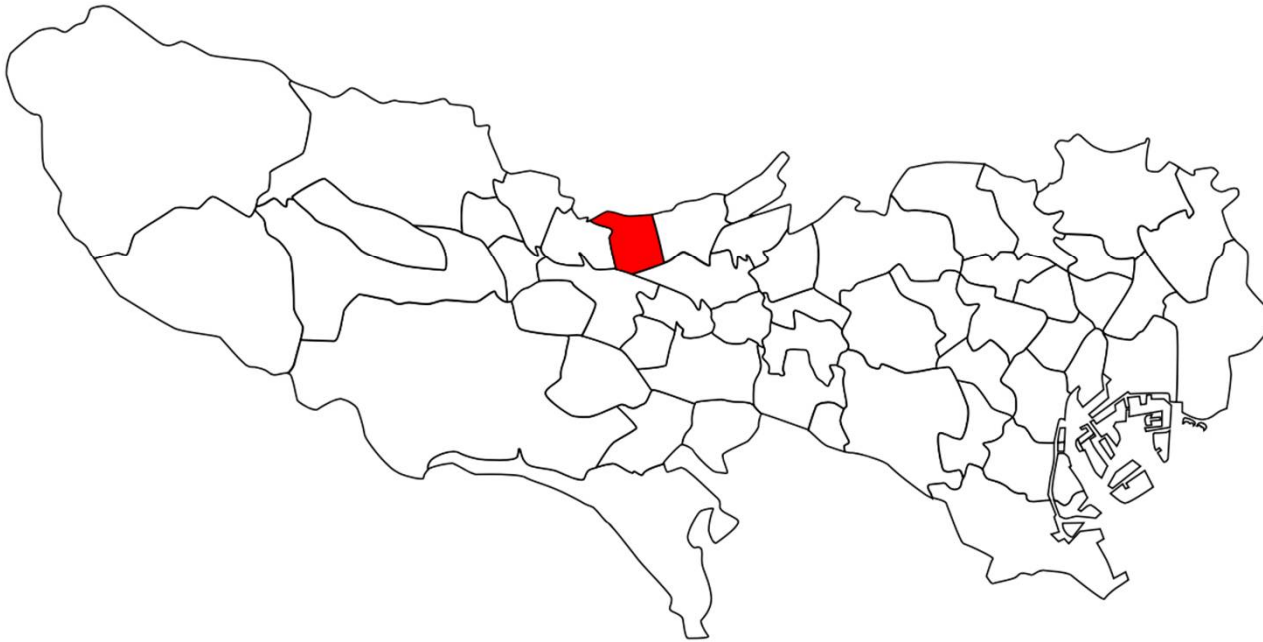
- ・名称: 東大和市精神障害者地域生活支援センターウエルカム
- ・運営法人: 社会福祉法人 東大和市社会福祉協議会
- ・開設日: 平成15年10月1日
- ・実施事業:
  - 障害者相談支援事業
  - 地域活動支援センター事業
  - 特定相談支援事業(計画相談)
  - 一般相談支援事業(地域移行、地域定着)
- ・活動地域: 東大和市



# 東大和市

東京都北多摩西部地区

人口:約86,000人



# 東大和市地域自立支援協議会

設置:平成22年3月



テーマ「障害者の地域での共生生活を実現するために」

## 相談部会の成り立ち

平成25年7月 『計画相談支援事業所連絡会(計相連)』 立ち上げ。  
当時計画相談をおこなっていた4事業所が参加。  
計画相談支援事業所の情報交換、地域課題の抽出  
を目的とする。

平成26年4月 計相連が自立支援協議会の専門部会に。名称を相談  
部会とした。  
現在7事業所が参加している。  
月1回開催。

## 相談部会でおこなったこと①

相談部会はなにを(どこを)目指すのか？

→『利用者の希望や課題を明確にする』

議論！！

相談部会で大切にすることは？

→『フルインクルージョンの視点』

議論！！

議論することで・・・参加者の意識向上、目標の共有  
リーダーシップをとるのは行政ではない  
わたしたちだよ

## 相談部会でおこなったこと②

実際に計画相談を始めてから一

「書式が使いにくい」「利用者に説明しづらい」  
原因は??

本当に知りたいのは”どういう風に生活していきたいのか”  
そして何よりも利用者に分かりやすいものでなくてはならない。

**一 国書式から東大和市独自の書式へ。**

サービス等利用計画・障害児支援利用計画（案）										様式 1 - 1	
利用者氏名：								(保護者氏名)		計画案作成日： 年 月 日	
障害支援区分			相談支援事業者			相談支援専門員氏名			利用者同意署名欄		
受給者証番号			サービス利用開始日			平成 年 月 日から					
			モニタリング頻度								
希望する生活						希望する支援					
＜具体的な計画の内容＞											
項目	「こうなったらいい」という目標 もしくは状態	そのためにこれからやること	いつまでに 達成するか	やることに見合う支援・サービス							
				種類 内容	頻度/週 時間/回	頻度/月 時間/月					
暮らしの場	どこで誰と どんな暮らしが したいか										
日中活動	日中はどこで どんな活動・ 仕事がしたいか										
余暇・楽しみ	休日はどこで どんなことを したいか										





申請者の現状（基本情報）										別紙 1
		作成日	平成	年	月	日	相談支援事業者		相談支援専門員氏名	
【基本情報】							【利用者の状況】			
ふりがな			住所等				<今、使っているサービス・その様子>			
氏名・性別		(男・女)								
生年月日		( 歳)								
保護者氏名			【持家・借家・GH・入所施設・医療機関・その他( )】							
障害または疾患名		電話番号								
障害支援区分		FAX番号								
【支援の状況】							<家族構成>		<サポートする人やグループ>	
	サービス等の名称	提供機関・提供者	支援内容	頻度						
公的支援・障害福祉サービス・介護保険・年金・手当等										
その他の支援										
<今までの生活>							<病院の支援>			

申請者の現状（基本情報）【現在の生活】

別紙 2

	月	火	水	木	金	土	日
6:00							
8:00							
10:00							
12:00							
14:00							
16:00							
18:00							
20:00							
22:00							
0:00							

【週間以外の活動】

【主な日常的活動】

## 相談部会でおこなったこと③

ケースの事例検討時一

「自分のケースを事例検討に出すのは初めてでどうすればいいのか  
わからない」

「そもそもどんなケースを出したらいいの？」

限られた時間の中で建設的な意見交換をして、相談支援(=相談支援専門員)の質を上げたい。

**一事例検討ガイドラインを作成。**

## 東大和市地域自立支援協議会 相談部会

### 事例検討ガイドライン

<どのような事例が検討に値するか>

- ①適切な社会資源がなく、支援に困っている事例
- ②本人や関係者を取り巻くニーズが複雑で、サービス体系が整備しにくい事例
- ③本人のニーズと周囲のニーズが大きく異なり、支援の方向性を定めることが難しい事例
- ④一定のサービスにはつなげているが、本当にその計画で良かったのか、相談支援専門員として腑に落ちない事例
- ⑤相談支援専門員としてはうまくはまったと思っているにも関わらず、利用者や支援者には納得してもらえていない事例
- ⑥その他、めっちゃうまくいって、是非とも皆に自慢したい事例 などなど

<事例検討の手順>

- ①個人情報消した上で、計画を委員に配布。
- ②その計画を至るまでの経緯を簡単に説明(10分)
- ③「自分としてはこういう部分が納得していない。」等、その事例を出した理由と、「自分としてはこうするべきなのではないかと思っている。」等の、自分なりの答えを提示(10分)
- ④他の専門員と意見交換(1時間)
- ⑤意見交換を踏まえ、「今後もこのようなアプローチを行ってみようと思う」等、自分の中での結論を提示して終了(10分)

<事例検討時の諸注意>

- ①その計画を作った相談支援専門員に対する誹謗中傷の禁止
- ②ダメ出しではなく、改善できる可能性のある点を意見として出し合う。
- ③他の人の意見を否定しない。
- ④全相談支援専門員が、積極的に発言すること。
- ⑤その場で知り得た個人情報を他言しないこと
- ⑥その場で配布された計画文書を紛失・漏えいさせないこと

## 相談部会でおこなったこと④

事例検討・地域課題抽出の話し合いでー

「他地域の情報も知る必要があるけれど、情報収集が難しい」「こんな課題を持っている人は他地域ではどうしてるのかな？」

他地域の情報を気軽に聞けたり、相談支援について語り合える仲間を増やしたい。

ー他地域の相談支援事業者連絡会との交流会を開始。

## 相談部会でおこなったこと⑤

事例検討を重ねた結果一

なんとなく支援のタブーな気がして、相談支援専門員が避けてきた問題が、利用者にとって一番のニーズであることが多いことに直面した。

「相談部会だからこそきちんと向き合おう」

⇒平成27年度学習会「障害のある方の性と交際について」

⇒平成28年度学習会 保護者や関係者の希望や思いが先行してないか？「知的障害のある方の主体的な地域生活を考える」

# これから

## ○課題

人材育成が大事なのは分かるけど...

## ○わたしたちの強み

「自立支援協議会」であること  
常に当事者としての目線があること

## ○最後に